

まるごと一冊 ネコ特集 特別付録 岩合光昭の子猫カレンダー

週刊朝日

12・28
400円

岩合光昭が撮る
ニッポンのネコ
ベーコン

大正11年2月25日創刊 新聞社同人会編集部
株式会社朝日新聞社
発行 週刊朝日社
12月28日発行

猫と幸せになる!

- ✿ 柄でわかる猫の性格診断
- ✿ おやつ感覚で手作り猫ごはん
- ✿ 猫下ろし漫画「しっぽのお医者さん」
- ✿ コラムも漫画も特集もぜんぶ猫!

同窓会が大学を救う

慶應三田会 早稲田稻門会 同志社校友会

滋賀大陵水会 小樽商科大緑丘会

内容は高度だ。新聞ニュース、スポーツ報道、テレビ制作などを現役社員が講義する。課題があり、最後はグループワーク。「地元の問題」を新聞記事風にリポートするのも「あり」だ。

昨年は九州で、今年は東京で新たなメディアクロバーカー会が発足している。

校友会本部も大学との連携を深めている。資金的裏付けができたため、奨学金の提供や各種事業を支援し

立しているが、先の長谷川副会長は、「それでいい。『自主自立』が大事ですから」

それでも「大学のために」を合言葉に校友会活動は変化した。新たな「化学反応」は起きるのだろうか。

滋賀太陵水会は看板学部と企業橋渡し海外留学を目指す学生に奨学金支援

11月、東京ミッドタウン日比谷で開催された「Data Scientist」Fes 2018」を前に、滋賀大経済学部・データサイエンス学部の同窓会「陵水会」は、参加の動員をかけるかどうか、思案した。

数理統計学の権威で、3年前に同大が国内初のデータサイエンス学部を立ち上げた際、白羽の矢を立て招請した竹村彰通学部長が特別

セッションで登壇するからだ。だが杞憂に終わった。400人の会場は満席で、同窓会の小梶清司理事長は「データサイエンスへの関心の高さ、ビッグデータを分析し価値を生み出す人材育成の大切さを改めて知ることとなつた」と話す。

同大は1922(大正11)年に創立した彦根高等商業学校の流れをくむ。長

くも、中国では、統計分野で毎年数百人から1千人近い博士が誕生すると聞く。データサイエンス教育への需要は高まるばかりで、日本の人材育成の大幅な遅れを少しでも挽回できればとの思いで、母校への支援は惜しまない」と語る。

竹村学部長は著書の『データサイエンス入門』(岩波新書)で「データサイエンス学部の卒業生が教科書

エクトの事後処理といったエクシップ論の特別講義を毎年7コマ提供。実践的な話が聽けるとあって、学生からの人気も高い。

就職支援でも、大学と連携しながらOBやOGによる就職相談会も様々な形で開催される。数多くの近江商人が輩出した土地柄であり、同大は彦根高商の伝統もあつて、実業界の人脈は一地方国立大学の枠をはるかに超えており、学生にとって卒業後も、陵水会は頼もしい存在であり続ける。

海外留学に意欲を持つ学生に対し、1人当たり100万円を限度に奨学金を給付できるようにした。

大学の選考面接には小梶理事長ら同会関係者が立ち会う。「動機が語学学習だけでは困る。帰国後、あるいは実社会に進んだ後、どうのぐらい成長するか」フォローワーして測つてみたい。企業の採用面接のような感じで、こちらも真剣勝負です。(小梶理事長)

大学の授業にも加わる。社会の第一線で活躍する卒

業生を講師として「リードデータシップ論」の特別講義を毎年7コマ提供。実践的な話が聽けるとあって、学生からの人気も高い。

就職支援でも、大学と連携しながらOBやOGによる就職相談会も様々な形で開催される。数多くの近江商人が輩出した土地柄であり、同大は彦根高商の伝統もあつて、実業界の人脈は一地方国立大学の枠をはるかに超えており、学生にとって卒業後も、陵水会は頼もしい存在であり続ける。

エクトの事後処理といったエクシップ論の特別講義を毎年7コマ提供。実践的な話が聽けるとあって、学生からの人気も高い。

就職支援でも、大学と連携しながらOBやOGによる就職相談会も様々な形で開催される。数多くの近江商人が輩出した土地柄であり、同大は彦根高商の伝統もあつて、実業界の人脈は一地方国立大学の枠をはるかに超えており、学生にとって卒業後も、陵水会は頼もしい存在であり続ける。

エクトの事後処理といったエクシップ論の特別講義を毎年7コマ提供。実践的な話が聽けるとあって、学生からの人気も高い。

就職支援でも、大学と連携しながらOBやOGによる就職相談会も様々な形で開催される。数多くの近江商人が輩出した土地柄であり、同大は彦根高商の伝統もあつて、実業界の人脈は一地方国立大学の枠をはるかに超えており、学生にとって卒業後も、陵水会は頼もしい存在であり続ける。

エクトの事後処理といったエクシップ論の特別講義を毎年7コマ提供。実践的な話が聽けるとあって、学生からの人気も高い。

就職支援でも、大学と連携しながらOBやOGによる就職相談会も様々な形で開催される。数多くの近江商人が輩出した土地柄であり、同大は彦根高商の伝統もあつて、実業界の人脈は一地方国立大学の枠をはるかに超えており、学生にとって卒業後も、陵水会は頼もしい存在であり続ける。

卒業生の企業トップらが「ビジネス塾」小樽商科大緑丘会が学生らに見せる「背中」

12月8日、東京・池袋のランドマークでもある60階建てのサンシャイン60の57階のフロアでは、住友商事元副社長の島崎憲明さんらを若者が囲み、グループ討議をしていた。

このフロアは小樽商科大の同窓会組織「緑丘会」の同窓会館。同大卒の島崎さんは同会理事長を務める。

島崎理事長は、「私が大切にしてきたこと」と題し、成功例や大損を招いたプロジェクト

「緑丘ビジネス塾」と称して、数カ月に1回、島崎理事長ら企業の第一線で活躍する卒業生らが講師役となる。集まるのは平成二桁に同大を卒業した主に首都圏在住の若者らだ。

今回の講師役となつた島崎理事長は、「私が大切にしてきたこと」と題し、成

功例や大損を招いたプロジェクト

「緑丘ビジネス塾」で若い卒業生らと討議する島崎さん(写真右から3人目)

らく経済と教育の2学部合併で運営されてきたが、データサイエンティストの育成がわが国の喫緊の課題となる中、4年前、佐和隆光前学長のイニシアチブのもとで新学部構想が浮上。2017年に国内初の文理融合型のデータサイエンティスト学部を創設し、今、各界から大きな注目を集めている。

新学部は企業や公的機関と100件近い連携協定を結ぶが、企業などの橋渡しに存在感を示したのが、陵水会だ。同大と企業との面談の仲介をする機会が増えた。小梶理事長は「米国や中国では、統計分野で毎年数百人から1千人近い博士が誕生すると聞く。データサイエンスへの関心の高さ、ビッグデータを分析し価値を生み出す人材育成の大切さを改めて知ることとなつた」と話す。

同大は1922(大正11)年に創立した彦根高等商業学校の流れをくむ。長

くも、中国では、統計分野で毎年数百人から1千人近い博士が誕生すると聞く。データサイエンスへの関心の高さ、ビッグデータを分析し価値を生み出す人材育成の大切さを改めて知ることとなつた」と話す。

同大は1922(大正11)年に創立した彦根高等商業学校の流れをくむ。長